

超低額回答は許さない

11月21日JR貨物会社は2006年度年末手当について、1.955ヶ月の超低額回答をおこなった。この回答を受けて国労は組合員・家族の期待を裏切った貨物会社に対し、再回答を求める抗議集会を各地で開催した。

速報

NRU
国労せんだい

NO. 2477
2006年11月29日
発行責任者 太田 博二
編集責任者 武田 昌仙

貨物会社を糾弾する

仙台・郡山で抗議集会

組合員の労苦に報いるべき

JR貨物会社に働く組合員にはこの7年間ベア・ゼロであり、各種減税の廃止や見直し、教育・医療費の負担増など、実質賃金が低下し続けている状況の中での超低額回答に対しては満身の怒りをもって抗議をするものである。

回答での席上、本部は「すべての組合が2・5ヶ月以上を要求する中で、社員の努力に込めていない」「中間決算では8億の経常利益を確保している」「慢性的な欠員状態

の中で安定輸送確保に努力している社員の労苦に報いるべきである」と指摘。再検討と再回答を強く求めてきたが、会社は「下期に引き続き経営は厳しい状況にあり、総合的に判断したものであり最終回答である」との態度に終始した。

労働者全体の声として

年末手当獲得の闘いは、FAXや寄せ書き行動など国労のみならず労働者全体の声として会社との交渉を後押ししてきた。また中央集会など客貨一体となった取組みを強

化する中から僅かではあるが0・095ヶ月増を積み上げさせることが出来た。こうした状況を受け、地本は貨物組合員が所属する各支部に抗議集会の開催を指示、24日に福島県集会和郡山工場支部集会、27日に宮城県集会和を開催し、それぞれ貨物会社に対し超低額回答に抗議するとともに再回答を求める抗議行動を行った。

レポート

郡山工場支部集会

11月24日、郡総車セ向い側において、低額回答に対する抗議集会が開催され、冒頭橋本委員長は情勢を報告した上で「この間支部として門前チラシ配布行動、そして分会も所長要請行動をやってきた。今後この集会を皮切りに、所長への抗議や抗議ファックス等、最後まで諦めずやりきる」と挨拶がされました。



整然と抗議行動を展開する組合員

また旅客の各分会長から「貨物と東日本の格差を、何としても是正させるために、客貨一体の闘いを粘り強く続ける」また貨物分会の千葉分会長からは「情けない会社だ。せめて2ヶ月分出すとなぜ言えないのか。設備投資に使う予算の少しだけでも回せば、3・5ヶ月は十分支払えるはずだ。再回答求め諦めず頑張る」と決意表明がされました。最後に管理者のいる事務所に向けて「生活できる手当をよこせ!」「貨物格差反対!」とシユブレヒコールを突き上げました。【郡工支部発】